

ユーチューブ風講義、学生から人気 昭和薬大、会話形式で学ぶ行動経済学

2026/8/24 12:07



ユーチューブ風講義に取り組む鈴木氏(左)と森元氏(中)、井上氏(右)の3人

メンバー同士でにぎやかにトークを繰り広げるユーチューブ動画のように、会話によって展開していく講義が、昭和薬科大（東京都町田市）で学生から人気を集めている。教える側が一方的に話し続ける一般的な大学の講義に比べ、学生の参加の意欲が高まり、発言も活発になるという。講義のテーマは行動経済学。理論だけでなく、現役の薬局薬剤師と大学教員が実例を交えて率直に語り合う様子が、学生の興味を引きつけている。

「ユーチューブ風講義」では、講師を務める鈴木伸悟氏（ガーデン薬局）を中心に、同大薬学教育推進センター統合薬学教育研究室の井上能博教授と、同大臨床薬学教育研

究センター実践薬学部門の森元能仁講師の3人による会話形式で講義が進む。

「行動経済学では、経済学では説明できない非合理的な行動をとる人間の心理や感情を心理学分野から検証する」。今年7月下旬、同大で取材のために開いた模擬講義の冒頭、鈴木氏はこう始めた。

具体例として、鈴木氏は、同大から横浜駅までの「行き方」を教員2人に質問した。

「アプリで最短ルートを探す」と合理性を重視する井上教授。一方の森元講師は「健康志向なので自転車で行く」と非合理的な回答を返した。3人は「（自転車で移動中に）薬学部の教員が熱中症で救急搬送されたらしゃれにならない」などと談笑した。

鈴木氏は、「治療のための薬でも、飲まない人がいる」と、患者の非合理的な行動に接することは、薬剤師の現場でもあると話題をつなげていった。

●人気講義、書籍化も

この講義は2年次を対象にした、いわゆる一般教養の選択科目で、2025年度から開講している。OTC医薬品を巡り、臨床知識だけでなく販売戦略など、現場の「経済」を薬学生に伝えようと、井上教授が、同大卒業生でOTC薬販売の経験が豊富な鈴木氏に声をかけたことから始まった。

同大では、必修講義は録画されており、学生はいつでもオンラインで視聴できる。だからこそ「リアルな講義の価値を感じてもらいたかった」（鈴木氏）といい、学生が親しみやすいユーチューブ風の講義に挑んだ。

講義は、受講登録者以外の学生も聴講するほど人気に。そのため、2年目の今年度は受講者数に上限を設けたところ、抽選となるほどの盛況ぶりだったという。こうした手応えに加え、講義で扱う理論や知見は現場の薬剤師業務にも広く活用できると考え、内容は書籍「薬剤師が教える行動経済学」にまとめ、今年6月に発刊した。

●構成・テンポにも工夫

学生の興味を引きつける工夫は、情報の伝え方にも表れている。行動経済学の考え方を、いったん身近な例を挙げて解説し、実際の患者対応に話を膨らませる。

例えば、人は利益よりも損失を過剰に評価する傾向があるとする「プロスペクト理論」について、まず「1万円を得る喜びと失う苦しみではどちらが大きく感じるか」と質問。その上で、「降圧剤をよく飲み忘れる患者には、服用しないデメリットを強調する方が効果的」などと、まだ現場を知らない薬学生にもイメージしやすいように説明している。

さらに、テンポよく進める会話は、学生の集中力を途切れさせない。教員が自身の考えを率直に話す雰囲気づくりも、学生が発言しやすくする工夫だ。鈴木氏は「伝え方で、行動が変わるのは患者も学生も同じ。人の思考の癖を理解した対応が大切になる」と話している。（折口 慎一郎）

All documents,images and photographs contained in this site belong to JIHO,Inc.

Use of these documents, images and photographs is strictly prohibited.

Copyright (C) JIHO,Inc.

株式会社じほう

[許諾番号20260911_01] 株式会社じほうが記事利用を許諾しています。